

【児童への話】

日に日に暑さが増してきています。今週は 20℃後半の暑さと、雨が混じった天気になりそうです。ムシムシ、ジメジメした日が続きますので、服装の調節と汗の処理のためのハンカチを持ってくることを忘れずに頑張りましょう。

さて今日は、「正直であること 人を思いやる心」について、お話しします。

校長先生が担任の先生だった時のことです。Aさんが友だちに「だれだれさんがあなたの悪口を言っていたよ」と話しました。その友だちは、とても辛く悲しい気持ちになりました。先生はその話を聞いて、Aさんに「どうして、悪口を言われていることを伝えたの？」と尋ねました。Aさんは、「本当に悪口を言われていたから、正直に教えてあげようと思って」と言いました。

Aさんはきっと、本当に、正直であろうと思い、伝えたのでしょう。でもそのことで、友だちが辛く悲しい気持ちになったことも事実です。先生はそのとき、「正直であること」と「人を思いやる心」についてのお話を思い出しました。こんな話です。

昔、中国に、孔子（こうし）というとても賢い人がいました。

ある人が孔子に言いました。「私の村にはとても正直な息子がいます。自分の父親が羊を盗んだとき、その息子は、自分の父親が泥棒だと警察に正直に申し出たのです。」

孔子は答えました。「私の村の正直というのは、それとは違います。息子は父親の罪をかばい、父親は息子の罪をかばいます。本当の正直というのは、人を思いやる心の中にあるものですよ。」

このお話には、賛成・反対、いろいろな考えがあると思います。校長先生は、自分が人に何かをしようとするとき、その人にとって嬉しい、気持ちいい、幸せになることであることが必要で、さらに、その後どうなるか、ということまで考えることが大切だと思っています。さて、皆さんがAさんの立場だったら、友だちに伝えますか？ 伝えませんか？

今日は「正直であること 人を思いやる心」についてお話ししました。

【本講話について】

子どもは正直な生き物です。そして、学校で友だちと関わる中で、何気なくしたことからトラブルに発展することが多くあります。新年度が始まって2ヶ月が経とうとしている今の時期、改めて子どもたちへの啓発が必要となるのが、「人の気持ちを慮る」ことです。今から自分がしようとしている言動が、友だちをどのような気持ちにさせ、どのような結果につながるのかを考え、自分の中での最適解を見付けて実行できるようになることが大切です。

学級や学校の皆がほんの少しずつ優しく気遣いし合うことで、集団生活が気持ちよくなることを実感させ、人の気持ちを慮ることができる子を育てていきます。